

# 地方創生関係交付金事業評価シート

		担当課名	建設産業課	事業No.	3			
事業名	藍住町内における阿波藍の復活に関する計画							
目的	藍染料の製造から藍染め製品の制作までの技術を習得させる人材育成拠点として「(仮称)勝瑞藍工房」【現：あいずみ藍工房】を整備し、地域おこし協力隊制度を併用して藍に携わる人材を輩出し、藍関連産業の振興に取り組む。							
実施内容	藍染め普及支援として次の事業を実施。 1) 寝床整備 2) 藍染め工房整備 3) 当施設におけるすくも製造							
重要業績評価指標 (KPI)	指標		開始前	2019	2020	2021	2022	2023
	すくもの生産量 (単位：kg)	目標		0	1,500	2,000	2,500	3,000
		実績	0	1,400	1,700	1,792		
	藍の作付面積 (単位：㎡)	目標		0	5,000	6,000	7,000	8,000
		実績	0	3,600	4,600	4,700		
	技術習得者数 (単位：人)	目標		0	1	2	3	4
実績		0	0	0	3			
達成度	A：達成      (B)：概ね達成      C：未達成							

## 【事業費と財源内訳】

(単位：円)

2021年度	計画額	実績額	交付金充当額	備考
事業費				2019年度施設整備完了

## 【2021年度の取組と課題】

- すくも作りに伴う寝せこみ場として利用。
- 藍建てを実施し、安定した質の染料を製造。藍染作品等を多く制作。  
また、町内幼稚園児の学習として、すくも製造の見学受入れや藍染体験学習を実施。
- 一定量のすくもを製造。

藍の栽培から藍建てまでを実施しているが、今後藍液の製造量の増幅を実現できるかが課題である。

## 【今後の取組】

2022年度から当該施設を「一般社団法人しじゅうはちがん」に指定管理し、藍関連事業の更なる推進を図る。

- 藍栽培・すくも製造・藍建て・藍染  
指定管理者の指導のもと、地域おこし協力隊が引き続き藍栽培から藍染までを町内で行っていく。
- 藍染普及  
藍に関するワークショップの開催、新規顧客の獲得や藍に親しんでもらう機会の創出を図る。

## ※藍住町地方創生推進会議の意見

・よい取り組みだと思う。藍栽培から藍染めまでの一連の流れを考えたとき、個人的には、「藍栽培」「すくも作り」が重要だと考える。「染め」は比較的分かりやすく、一般の人興味を引きやすい、PRしやすい項目だと思う。新たに「やってみたい」と思う人も相当数いるのではないかと。一方、「藍栽培」「すくも作り」は、地味な重労働でもあり、新たに「やってみない」と思う人や後継者を確保するのは「染め」よりも難しいのではないかと。そう考えると、KPIの「すくもの生産量」「藍の作付面積」は、目標値は下回っているものの、増え続けていることは評価に値すると考える。引き続き増やし続けていただきたい。